内閣府本府政策体系に掲げる
令和8年度実施施策に係る
ロジックモデル・事前分析表

政策名	健康・医療
施策名	匿名加工医療情報及び仮名加工医療情報に関する施策の推進
担当部局・ 作成責任者名	健康・医療戦略推進事務局 参事官　高宮 裕介
評価実施時期	令和6年度（1年目評価） 令和10年度（最終年度評価）

ロジックモデル

評価期間：令和5年度～令和9年度

解決すべき問題・課題

次世代医療基盤法に基づき、医療情報の利活用により健康・医療に関する先端的研究開発及び新産業創出を促進するため、各ステークホルダーが制度に対する理解を増進し、制度への協力を推進する。

施策の概要

次世代医療基盤法の国民による適切な理解に基づき、医療情報の利活用により健康・医療に関する先端的研究開発及び新産業創出を促進する。

事業の概要（アクティビティ）	活動実績（アウトプット）	中目標（アウトカム）	施策目標（インパクト）
＜対認定事業者＞ 事業者の認定審査	事業者の認定・監督・指導 ①②	匿名・仮名加工が適正に行われる ❶	健康・医療に関する先端的研究開発及び新産業創出が促進される
＜対利活用者・医療情報取扱事業者＞ 利活用者の利活用ニーズや医療情報取扱事業者の医療情報提供に関する課題に関する調査・分析	＜対利活用者＞ ・利活用者向け説明会の実施 ・利活用者の拡大のための調査・分析結果の共有 ③	・新たな利活用分野が発掘される ・研究を行う利活用者が増加する ❷	
【インプット】 匿名加工医療情報の利活用に必要な経費：64.5百万円	＜対医療情報取扱事業者＞ ・医療情報取扱事業者向け説明会の実施 ・協力医療情報取扱事業者の拡大のための調査・分析結果の共有 ④	・協力医療情報取扱事業者が増加する ・提供される医療情報の件数が増加する ❸	
＜対国民・患者＞ 制度に対する国民の理解を増進するための広報・啓発活動	住民説明会の実施 コールセンターの設置 ⑤⑥	国民・患者の制度に対する理解が増進される ❹	
【インプット】 次世代医療基盤法に関する国民・患者の理解の増進に必要な経費：48.3百万円			

【測定指標】
- ❶認定作成事業者等の医療情報に関する不適切な取扱等に関する事案報告数
- ❷利活用件数
- ❸協力医療情報取扱事業者の数、医療情報の収集規模
- ❹オプトアウト率（患者からの医療情報提供についての拒否申出率）

【参考指標】
- ①認定事業者数
- ②次世代医療基盤法の認定等に関する有識者・実務者会議開催数
- ③利活用が見込まれる事業者に対する説明会の回数
- ④医療機関・自治体等に対する説明会の回数
- ⑤住民説明会の数　⑥コールセンターへの問い合わせ件数

事前分析表（概要）

評価期間：令和5年度～令和9年度

施策名	匿名加工医療情報及び仮名加工医療情報に関する施策の推進
施策目標	健康・医療に関する先端的研究開発及び新産業創出が促進される。

中目標1	匿名・仮名加工が適正に行われる
現状・課題	改正次世代医療基盤法が令和6年4月に施行され、既存の認定匿名加工医療情報作成事業者3者について、仮名加工医療情報作成事業者として認定した。同者において匿名・仮名加工が適正に行われている。
令和8年度の取組	引き続き適正に匿名・仮名加工が行われるよう申請のあった事業者に対する認定作業に取り組む。

認定作成事業者等の医療情報に関する不適切な取扱等に関する事案報告数

1件（基準年度：R5年度） ▶ 2件（R7年度実績値） ▶ 0件（R8年度目標値）

認定事業者数

3者（参考年度：R4年度） ▶ 3者（R7年度実績値）

次世代医療基盤法の認定等に関する有識者・実務者会議開催数

3回（参考年度：R4年度） ▶ 0回（R7年度実績値）

事前分析表（概要）

評価期間：令和5年度～令和9年度

中目標2	・新たな利活用分野が発掘される ・研究を行う利活用者が増加する
現状・課題	これまでの広報活動で大学、製薬企業等の研究者への次世代医療基盤法の周知が進み、利用実績数（延べ数）が着実に増加している。
令和8年度の取組	引き続き適切な広報活動等により、利活用件数の増加をめざす。

利活用件数

21件
（基準年度：R4年度）
→
113件
（R7年度実績値）
→
81件
（R8年度目標値）

利活用が見込まれる事業者に対する説明会の回数

24回
（参考年度：R4年度）
→
17回
（R7年度実績値）

事前分析表（概要）

評価期間：令和5年度～令和9年度

中目標3	・協力医療情報取扱事業者が増加する ・提供される医療情報の件数が増加する
現状・課題	これまでの広報活動で医療機関の次世代医療基盤法の理解が進み、協力医療情報取扱事業者が増加し、提供される医療情報の件数も増加している。
令和8年度の取組	引き続き適切な広報活動等により、協力医療情報取扱事業者、提供される医療情報の件数の増加をめざす。

協力医療情報取扱事業者の数

108者 （基準年度：R4年度）	165者 （R7年度実績値）	150者 （R8年度目標値）

医療情報の収集規模

261万人 （基準年度：R4年度）	620万人 （R7年度実績値）	580万人 （R8年度目標値）

医療機関・自治体等に対する説明会の回数

10回 （参考年度：R4年度）	10回 （R7年度実績値）

事前分析表（概要）

評価期間：令和5年度～令和9年度

中目標4	国民・患者の制度に対する理解が増進される
現状・課題	コールセンターへの問い合わせ件数は例年同程度であり、引き続き国民・患者の制度に対する理解増進を図る必要がある。
令和8年度の取組	引き続きコールセンターの対応を行い、国民・患者の制度に対する理解の増進を図る。

オプトアウト率（患者からの医療情報提供についての拒否申出率）

0.2%以下 （基準年度：R5年度）	0.2%以下 （R7年度実績値）	0.2%以下 （R8年度目標値）

住民説明会の数

2回 （参考年度：R4年度）	1回 （R7年度実績値）

コールセンターへの問い合わせ件数

151件 （参考年度：R4年度）	168件 （R7年度実績値）

中 目 標 1	匿名・仮名加工が適正に行われる
測定指標1	認定作成事業者等の医療情報に関する不適切な取扱等に関する事案報告数

測定指標の選定理由

匿名・仮名加工を認定事業者が適正に行われた結果を直接表す指標であるため

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標値 （目標年度）	0 （R10年度）	年度ごとの 目標値	0	0	0	0	0
基準値 （基準年度）	1 （R5年度）	年度ごとの 実績値	1	0	2		

目標（値・年度）の設定根拠・実績値の把握方法

目標（値・年度）の設定の根拠
・・・適正に行われればO件であるものとして設定

実績値の把握方法
・・・認定事業者からの報告数

中 目 標 1	匿名・仮名加工が適正に行われる
参考指標1	認定事業者数

参考指標の選定理由

匿名・仮名加工を認定事業者が適正に行うことから、その規模の参考となるため

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
参考値 （参考年度）	3 （R4年度）	年度ごとの 実績値	3	3	3		

実績値の把握方法

各年度末における認定事業者数

中 目 標 1	匿名・仮名加工が適正に行われる
参考指標2	次世代医療基盤法の認定等に関する有識者・実務者会議開催数

参考指標の選定理由

同会議では、法に基づく認定等について有識者及び実務者から意見を聴取するため、指導・監督規模の参考となるため

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
参考値 （参考年度）	3 （R4年度）	年度ごとの 実績値	3	1	0		

実績値の把握方法

会議開催数を合計

中 目 標 ２	・新たな利活用分野が発掘される ・研究を行う利活用者が増加する
測定指標2	利活用件数

測定指標の選定理由

医療情報の利活用を直接表す指標であるため

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標値 （目標年度）	111 （R10年度）	年度ごとの 目標値	36	51	66	81	96
基準値 （基準年度）	21 （R4年度）	年度ごとの 実績値	40	70	113		

目標（値・年度）の設定根拠・実績値の把握方法

目標（値・年度）の設定の根拠
・・・実績数を踏まえて、一定の伸び率で医療情報の利活用実績が増加するものとして設定

実績値の把握方法
・・・認定事業者からの届出数

中 目 標 ２	・新たな利活用分野が発掘される ・研究を行う利活用者が増加する
参考指標3	利活用が見込まれる事業者に対する説明会の回数

参考指標の選定理由

利活用が見込まれる事業者に対して説明を実施することで、新たな利活用分野の発掘につながることが期待されるため

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
参考値 （参考年度）	24 （R4年度）	年度ごとの 実績値	25	28	17		

実績値の把握方法

説明会の開催数を合計

中 目 標 ３	・協力医療情報取扱事業者が増加する ・提供される医療情報の件数が増加する
測定指標3	協力医療情報取扱事業者の数

測定指標の選定理由

医療情報の利活用に繋がる指標であるため

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標値 （目標年度）	170 （R10年度）	年度ごとの 目標値	120	130	140	150	160
基準値 （基準年度）	108 （R4年度）	年度ごとの 実績値	119	152	165		

目標（値・年度）の設定根拠・実績値の把握方法

目標（値・年度）の設定の根拠

・・・実績数を踏まえて、一定の伸び率で認定事業者に医療情報を提供する事業者が増加するものとして設定

実績値の把握方法・・・認定事業者からの届出数

中 目 標 ３	・協力医療情報取扱事業者が増加する ・提供される医療情報の件数が増加する
測定指標4	医療情報の収集規模

測定指標の選定理由

医療情報の利活用に繋がる指標であるため

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標値 （目標年度）	740万人 （R10年度）	年度ごとの 目標値	340	420	500	580	660
基準値 （基準年度）	261万人 （R4年度）	年度ごとの 実績値	364	473	620		

目標（値・年度）の設定根拠・実績値の把握方法

目標（値・年度）の設定の根拠
・・・実績数を踏まえて、一定の伸び率で医療情報の収集が進むものとして設定

実績値の把握方法
・・・認定事業者からの届出数

中 目 標 ３	・協力医療情報取扱事業者が増加する ・提供される医療情報の件数が増加する
参考指標4	医療機関・自治体等に対する説明会の回数

参考指標の選定理由

医療機関・自治体等の理解が深まることで、提供医療機関・自治体が増加し、
提供される医療情報の件数の増加が期待されるため

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
参考値 （参考年度）	10 （R4年度）	年度ごとの 実績値	9	11	10		

実績値の把握方法

説明会の開催数を合計

中 目 標 4	国民・患者の制度に対する理解が増進される
測定指標5	オプトアウト率（患者からの医療情報提供についての拒否申出率）

測定指標の選定理由

国民・患者の制度に対する理解の割合を直接表す指標であるため

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
目標値（目標年度）	0.2%以下（R10年度）	年度ごとの目標値	0.2%以下	0.2%以下	0.2%以下	0.2%以下	0.2%以下
基準値（基準年度）	0.2%以下（R5年度）	年度ごとの実績値	0.2%以下	0.2%以下	0.2%以下		

目標（値・年度）の設定根拠・実績値の把握方法

目標（値・年度）の設定の根拠
・・・実績数を踏まえて、今後も同程度の理解度を維持していくことが必要であるため

実績値の把握方法
・・・認定事業者からの報告数

中 目 標 ４	国民・患者の制度に対する理解が増進される
参考指標５	住民説明会の数

参考指標の選定理由

住民への説明会の実施で、国民・患者の制度に対する理解増進が期待されるため

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
参考値 （参考年度）	2 （R4年度）	年度ごとの 実績値	2	0	1		

実績値の把握方法

説明会の開催数を合計

中 目 標 ４	国民・患者の制度に対する理解が増進される
参考指標６	コールセンターへの問い合わせ件数

参考指標の選定理由

問い合わせに対応することにより、問い合わせをした国民・患者の制度に対する理解が深まると考えられるため

			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
参考値（参考年度）	151件（R4年度）	年度ごとの実績値	165	425	168		

実績値の把握方法

コールセンター事業者からの対応数の報告

参考情報

（1）参考となる情報

・第3期健康・医療戦略（令和7年2月18日閣議決定）

次世代医療基盤法に基づき、認定作成事業者として3者が認定され、同法に基づくデータの提供が始まった。2024年4月より施行された改正法により、従来の匿名加工医療情報に加えて、特異な検査値や病名等の加工の必要がない仮名加工医療情報の利活用が可能になったほか、次世代医療基盤法に基づき作成した匿名加工医療情報と、国が保有する公的DBとの連結解析が可能となり、RWD利活用の可能性が広がった。

（2）施策に関連する主な内閣府事業（開始年度）

・次世代医療基盤法に関する国民・患者の理解の増進に必要な経費
（行政事業レビュー事業番号0136）

・匿名加工医療情報の利活用に必要な経費
（行政事業レビュー事業番号0137）

（3）施策に関連する主な他省庁の事業

特になし